

『課題解決型インターンシップ』 株式会社スミオン 実習報告

課題解決型インターンシップとは、

- ・『実践する力』（学んだ知識を応用し、実際の仕事の中で活用していく力）の育成を目的とした、2・3年生対象の選択科目「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」の1つの型。
- ・企業が実際に抱える課題に取り組み、課題を解決するためのプロセスを実践することで実社会でも応用可能な汎用的能力を養うことを目的とする。2名程度でチームを組み活動することにより、自分の専門性を活かしながら他者とチームで働く力を養うことができる。

○企業名：株式会社スミオン

○概要：8/22～9/16の4週間、インターンシップに参加しました。インターン生3人は、3つのプロジェクトに取り組みました。実習中は、ZoomやSlackを用いて社員の方々とコミュニケーションを取り、それぞれの業務が円滑にできるように励みました。最終日には、それぞれが取り組んだプロジェクトの成果を社員の方々の前で報告しました。

1ヶ月間、主に担当していただいた先輩方 (写真左側)



○最終報告会

リモートワークの方もいらっしゃるため、Zoomを活用した形での発表となりました。テスト作成やモック作成など3人ともそれぞれ別の作業があり、あまり時間が取れない中での資料作成でした。しかし、何とか発表日までに間に合わせることが出来ました。また、3人とも堂々と発表する事ができました。

情報工学科 3年 桝添 太貴

○4週間のプロジェクト：保育支援システムのテスト仕様書作成とモック作成

○インターンシップに取り組んでのコメント

テスト仕様書作成では、システムの動きと確認観点を合わせて考える必要があり、論理的思考力を鍛えることができました。システムの動きや仕様が分からず行き詰まっていた時は、すぐに社員の方々とコミュニケーションを取り、問題の解決に努めました。

インターンシップ中の仕事風景



情報システム工学科 2年 神代 恭輔

○4週間のプロジェクト：保育支援システムのテスト自動化

○インターンシップに取り組んでのコメント

私はUiPathというツールを使って、動作確認を自動化するプログラムを制作していました。授業や個人制作のコードとは異なり、自分が使うためだけのものではないため、社員の方から教えていただいた可読性や保守性という観点を意識して取り組みました。

知能機械工学科 2年 篠原 絢音

○4週間のプロジェクト：保育支援システムのテストとモック作成

○インターンシップに取り組んでのコメント

テストを通して、保育支援システムにどんな機能があるか、どのように使うことができるかということを感じることができました。分からないことも多々ありましたが、社員の方に教えて頂きながらモック作成をすることができました。

インターンシップを通して学んだこと

○最も大事だと感じたのは「コミュニケーションを取る事」です。どこまで仕事が進んだか、何が分からなくて作業が行き詰まっているのかなどを相談することで、問題の解決に繋がっていくと感じました。今後の大学生活では、色んな人と積極的にコミュニケーションを取っていくと思います。(桝添)

○コミュニケーション能力が大切だと感じました。プログラムの不具合解決のため、先輩方にアドバイスを求めようとしても、「どこで詰まっているのか」、「どのような経緯で起きたのか」などを説明出来なければ、先輩方もアドバイスしにくいです。そのようなことから、伝えることの難しさを実感しました。(神代)

○今回様々な業務をさせていただき、ITの企業さんがどのようなことをしているのか知ることができました。また、業務で課題に直面したときは、社員さんが教えてくださったり、自分で調べたりして試行錯誤しました。できあがったときはとても達成感を感じ、ものづくりの楽しさを実感できました。(篠原)